

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2014年7月)

発表日2014年9月8日(月)

～低水準の黒字が続く～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 高橋 大輝
TEL : 03-5221-4524

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支
					貿易収支	サービス収支	
2013	8月	1,571	1,643	▲ 9,601	▲ 6,408	▲ 3,193	12,134
	9月	5,948	447	▲ 12,517	▲ 9,582	▲ 2,935	13,816
	10月	▲ 1,543	780	▲ 12,070	▲ 8,636	▲ 3,434	13,874
	11月	▲ 5,969	▲ 1,078	▲ 13,193	▲ 10,119	▲ 3,074	13,506
	12月	▲ 6,799	305	▲ 12,815	▲ 9,293	▲ 3,522	13,960
2014	1月	▲ 15,861	▲ 5,830	▲ 18,085	▲ 14,384	▲ 3,701	13,773
	2月	6,077	▲ 515	▲ 11,986	▲ 8,809	▲ 3,177	13,460
	3月	1,597	▲ 7,434	▲ 18,828	▲ 15,882	▲ 2,947	12,890
	4月	1,874	1,305	▲ 11,067	▲ 8,314	▲ 2,753	14,176
	5月	5,228	3,846	▲ 7,673	▲ 5,545	▲ 2,128	13,593
	6月	▲ 3,991	1,256	▲ 10,766	▲ 7,960	▲ 2,806	12,785
	7月	4,167	993	▲ 12,029	▲ 8,428	▲ 3,601	14,737

(出所)財務省「国際収支統計」

○経常収支(季調値)は低水準の黒字が続く

7月の経常収支(原数値)は4,167億円の黒字(コンセンサス:4,456億円の黒字、レンジ:1,848~5,800億円)と2ヶ月ぶりの黒字となった。季節調整値では、993億円の黒字と4ヶ月連続の黒字である。経常収支(季節調整値)は黒字基調で推移しているが、水準は低いままだ。

経常収支(季節調整値)を項目別にみると、貿易収支、サービス収支、第二次所得収支の赤字幅が拡大、第一次所得収支の黒字幅拡大、全体としてみると黒字幅小幅縮小となった。第一次所得収支の黒字額の伸びが比較的大きなものとなったため経常収支は黒字を維持したものの、その他の項目では弱さが目立つ。大きなウエイトを占める貿易収支は、輸出が前月比+0.1%、輸入が同+0.8%と大きな動きは無く、貿易赤字幅(6月:▲7,960億円→7月:▲8,428億円)は前月と同水準だった。

第一次所得収支は高水準の黒字で推移しているものの、輸出の停滞を背景に貿易収支が大幅な赤字を継続しており、経常収支の黒字幅は低水準なものとなっている。

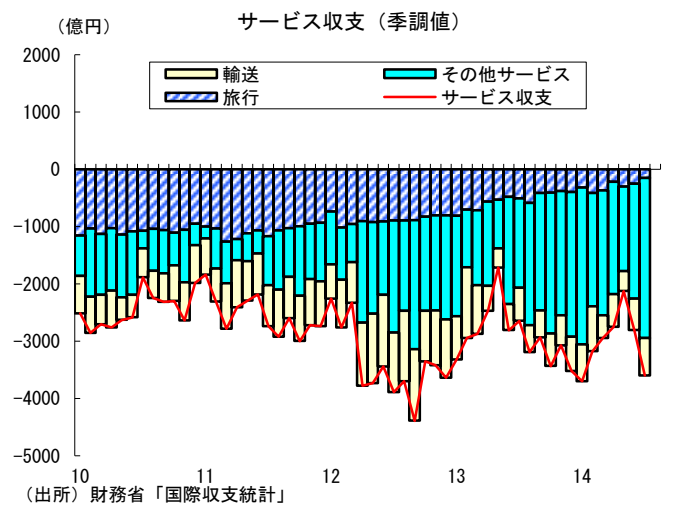
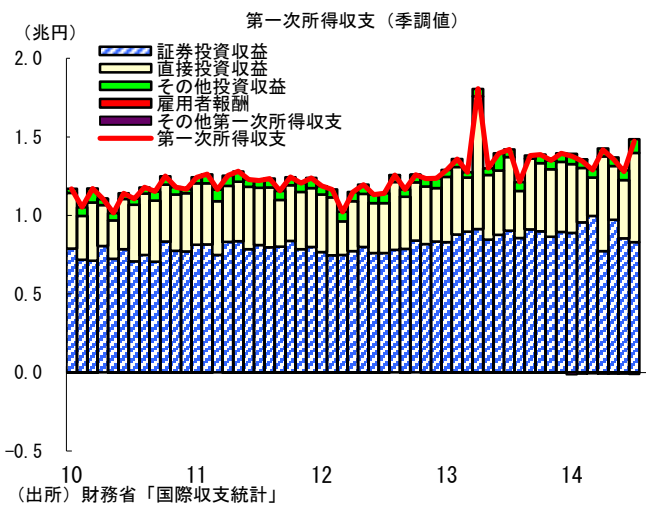
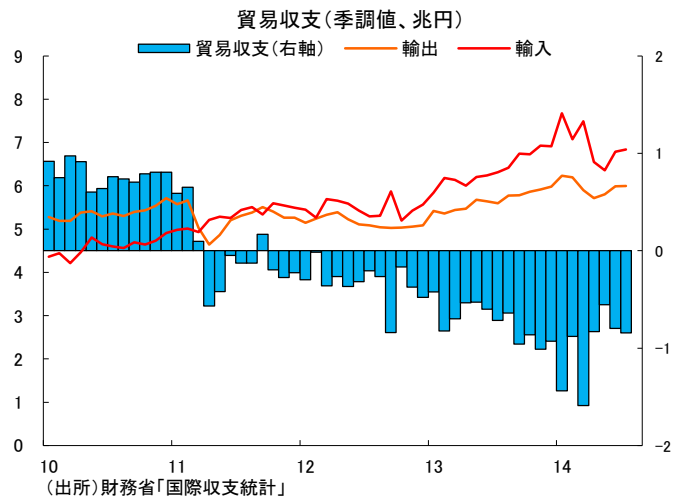
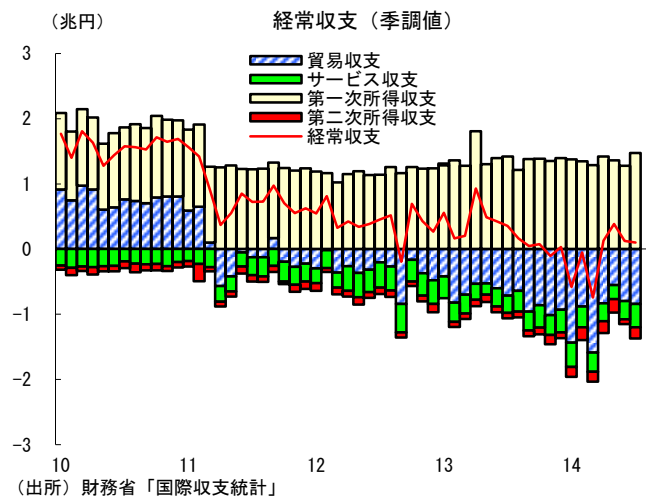
○第一次所得収支は横ばい圏の推移が続く

7月の貿易外収支(季節調整値)をみると、第一次所得収支は14,737億円の黒字と比較的大きく黒字幅が拡大した。直接投資収益(6月:3,716億円黒字→7月:5,676億円黒字)の黒字額が大幅増加したことが主因だ。証券投資収益(6月:8,546億円→7月:8,302億円)は黒字幅が小幅縮小した。均してみると、直接投資収益は増加傾向、証券投資収益は減少傾向、第一次所得収支は横ばいでの推移となっている。証券投資の黒字額が減少傾向で推移していることはやや気がかりだが、対外資産負債残高は直接投資残高、証券投資残高ともに高水準を維持していることや、金融収支をみても対外直接投資、対外証券投資ともに取得超傾向での推移が続いていることなどから今後も第一次所得収支が大幅な黒字を計上する構図に変化はないとみている。

サービス収支は、3,601億円の赤字（6月：2,806億円赤字）と2ヶ月連続で赤字幅が拡大した。内訳をみると、輸送収支（6月：550億円赤字→7月：652億円赤字）、その他サービス収支（6月：2,006億円赤字→7月：2,800億円赤字）の赤字幅が拡大した。ともに6月、7月と悪化が続き14年1月の水準まで赤字幅が拡大した。ただし、前年差でみると知的財産権等使用料など大きく振れている項目もあり悪化基調入りしたとはみていない。一方、旅行収支（6月：250億円赤字→7月：149億円赤字）は赤字幅を縮小した。旅行収支は、訪日外客数の増加を追い風とした受取額の増加基調を背景に赤字幅縮小傾向が続いている。

○経常収支（季節調整値）は小幅ながらも黒字基調で推移する見込み

足元の経常収支（季節調整値）は、小幅黒字基調が続いている。先行きも貿易・サービス収支の赤字を第一次所得収支がカバーするといった構図が続くものとみている。先行きを展望する上では、貿易収支の動向が重要になる。8月の貿易統計上中旬速報をみると、8月の輸出は弱めの結果になりそうだ。財務省によれば、自動車や有機化合物などが輸出の減少に寄与したとのことだ。足元の輸出改善ペースが鈍いことを踏まえると、7-9月期に貿易収支が改善基調入りまでできるかは怪しくなってきた。もっとも、輸出の動向に影響する海外経済を展望すると、米国経済は雇用情勢の改善や所得の拡大などを背景に安定した成長を続ける公算が大きい。また、米国経済の順調な回復は、新興国経済の追い風となろう。こうした海外経済の持ち直しが輸出の後押しになると見込んでおり、輸出の回復を背景に貿易赤字も縮小傾向で推移するとみている。第一次所得収支は豊富な対外資産を背景に高水準の黒字基調が続くだろう。総じてみれば、経常収支は当面大幅改善は見込みづらいものの、緩やかな黒字拡大基調で推移するとみている。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。